

## 気になるニュース わたしの視点

東濃信用金庫は、1922(大正11)年創業の多治見信用組合をルーツとし、昨年創業100年を迎え、先日は新本店の完成と合わせ100周年式典を開催しました(3月2日付岐阜新聞8面)。大正、昭和、平成、令和と長い時を刻みながら存続・成長できたのは、地域の皆さまの支援、弊金庫歴代役職員の努力のためものと感謝申し上げます。

信用金庫は「銀行か?」戦後間もなく信用組合の業務範囲を広げる金融機関(融資先の拡大、会員以外預金の獲得など)の設置が検討された際、その名称を「信用銀行」や「庶民銀行」にする案がありました。しかし業界関係者から、特定地域の中小企業、住民を融資対象とし、「相互扶助、非営利」を旨とする組合組織と、株主への利益還元に重きを置く株式会社である銀行とは本質的に異なるとの意見

東濃信用金庫会長 市原好二氏

### 東濃信金、創業100周年



いちはら・こうじ 1954年、多治見市生まれ。名古屋大学法学部卒業。日本銀行函館支店長、同京都支店長を経て、2009年6月、東濃信用金庫理事長に就任。21年6月から同金庫会長。趣味は温泉、美食探訪。多治見市在住。

が、出て、当時の舟山正吉大蔵省銀行局長が、「オリンピックの金、銀、銅メダルじゃないが、銀はすでに銀行が使っています。金という銀より上だけ、この際、政府系機関しか使っていない『金庫』を新し

い門出を祝い使ってもよいことにしよう」と提案され、信用金庫に決定しました。信用金庫は、株式を発行しませんが融資の際には会員になっていただき、出資証券を保有してもらいます。そして集めた預金を、会員のニーズに応える形で融資します。また会員への安定配当のため、利益も上げなければなりません。ただし増益をいわずに求めるのではなく、安定した利益を計上しながら、その利益

「地域社会発展に貢献」東濃信金、創業100周年式典

十六日G、経営者のDX認定事業者に、同信金に加盟するD、同信金の創業100周年式典が、多治見市にある同信金の新本店で開催された。式典には、同信金の歴代役員、関係者、そして地域の皆さまが参加された。式典では、同信金の創業100周年を記念し、地域の発展に貢献する取り組みが発表された。また、同信金の新本店の完成と合わせ、100周年式典を開催した。式典では、同信金の創業100周年を記念し、地域の発展に貢献する取り組みが発表された。また、同信金の新本店の完成と合わせ、100周年式典を開催した。

聴力測る防音スタジオ  
岐阜補聴器、店舗一部改装

2023年3月2日付8面より

## 地域支えていく使命感胸に

を地域の繁栄、地元中小企業の発展、地域住民の豊かな生活のために活用します。「相互扶助、非営利」にはそんな意味合いが込められています。

東信の経営理念は、「地元と共にあり共に栄える」です。収益の源である預貸金利などの低下、一部欧米金融機関での経営悪化・破綻など、厳しい経営環境が続きますが、地域を支えるという重い使命感を持って、次の100年に向けてもまい進していく所存です。新本店は、東濃地場産業のタイルを豊富に使用し、美濃焼の陶壁・陶芸品も展示しています。ぜひ一度お立ち寄りください。

(引用記事は25日付電子版最終面に掲載)



電子版利用  
のための  
会員登録は  
こちら